

# 4 スポーツ観戦

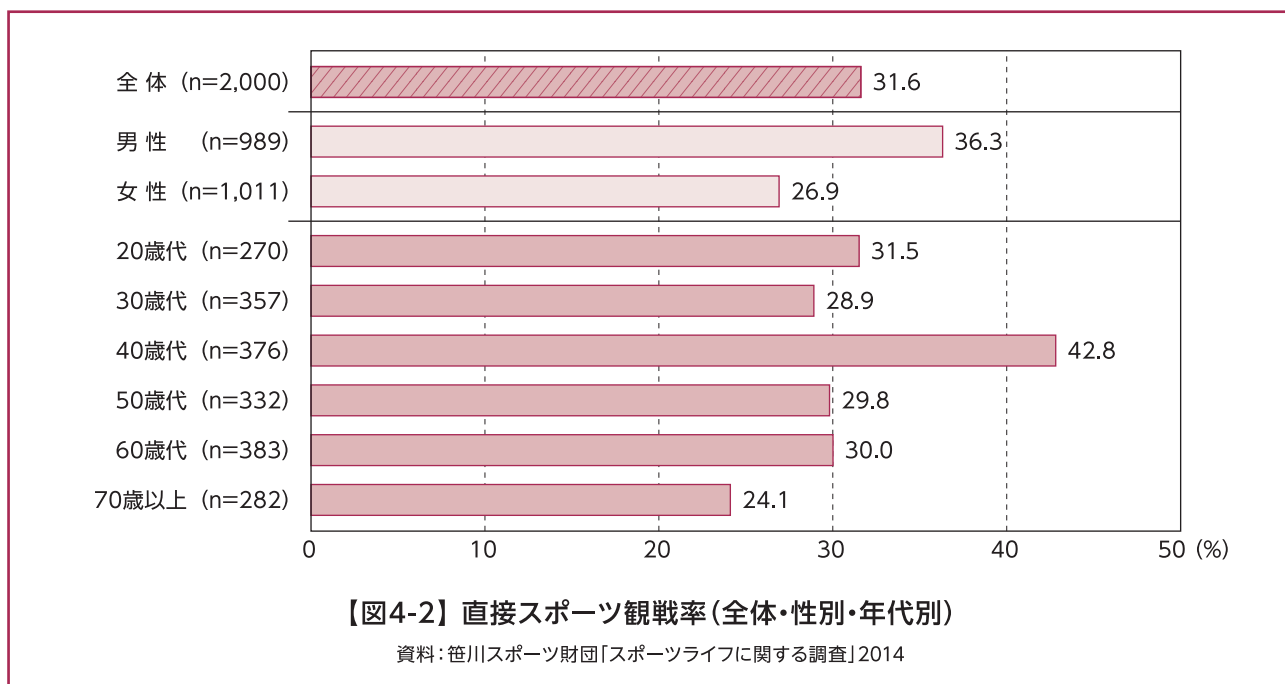
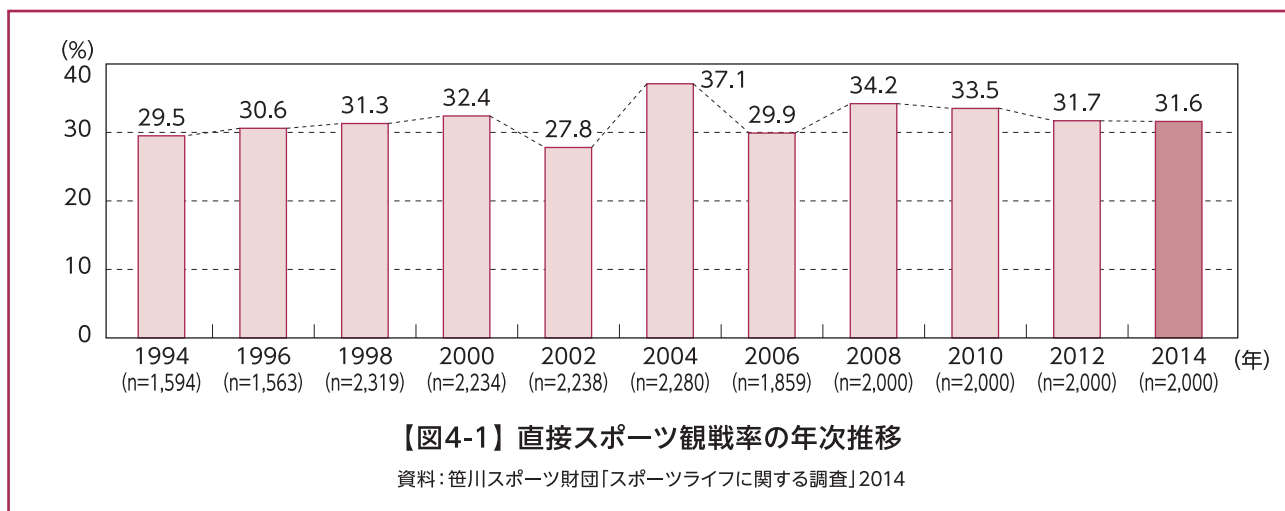
## 4-1 | 直接スポーツ観戦状況

過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツを観戦した者は、全体の31.6%であった(図4-1)。2012年の31.7%と比較すると0.1ポイント減少した。今回の結果から、過去1年間のわが国成人の直接スポーツ観戦人口は3,280万人と推計された。

性別にみると、男性の観戦率は36.3%、女性の観戦

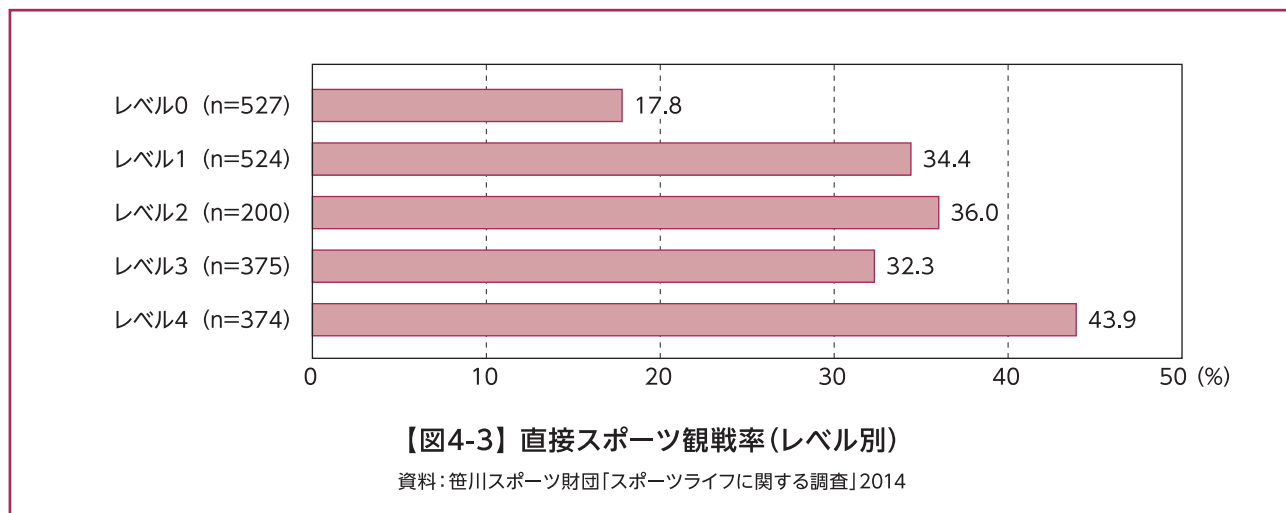
率は26.9%と、男性が女性を9.4ポイント上回っていた(図4-2)。男性の観戦率が高い傾向は過去の調査結果と同様である。

年代別にみると、40歳代の観戦率が42.8%と最も高い。次いで20歳代31.5%、60歳代30.0%、50歳代29.8%、30歳代28.9%、70歳以上24.1%であり、70歳以上が若干低いものの、観戦率に大きな違いはみられない。



運動・スポーツ実施レベル別にみると、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」の観戦率が17.8%と最も低くなっており、運動・スポーツを実施していない者は直接観戦も低調である(図4-3)。「レベ

ル1」から「レベル4」を比較すると、「レベル4」が43.9%と最も高く、運動・スポーツ実施と直接観戦の関係がみとれるが、「レベル1」「レベル2」「レベル3」の観戦率に大きな違いはみられない。



## 4-2 | 直接スポーツ観戦種目

直接スポーツ観戦の状況を種目別にみると、全体では「プロ野球(NPB)」の直接スポーツ観戦率が15.8%と最も高く、次いで「Jリーグ(J1、J2、J3)」5.5%、「高校野球」5.3%、「マラソン・駅伝」4.8%となった(表4-1)。プロ野球が最も高く、Jリーグ、マラソン・駅伝と続く傾向は過去の調査結果と同様である。

観戦頻度では、「バスケットボール(高校、大学、JBLなど)」が年平均8.10回と最も多く、「アマチュア野球(大学、社会人など)」7.26回、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」5.48回、「高校野球」3.25回と続く。一方、「フィギュアスケート」が1.00回で最も少なく、「大相撲」1.07回、「バレーボール(日本代表試合)」1.14回、「マラソン・駅伝」1.28回、「サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)」1.29回と続く。推計動員数では、「プロ野球(NPB)」3,756万人が最も多く、「アマチュア野球(大学、社会人など)」1,960万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」1,816万人が続く。

性別にみると、男女ともに最も観戦率が高い種目は「プロ野球(NPB)」で、それぞれ20.2%と11.5%であるが、男性の観戦率は女性より8.7ポイント高い(表4-2)。男

性は2位「Jリーグ(J1、J2、J3)」8.0%とプロ種目が続くが、女性は「マラソン・駅伝」5.1%となっている。

年代別にみると、すべての年代で「プロ野球(NPB)」の観戦率が最も高い(表4-3)。2位の種目は、20歳代、30歳代、40歳代が「Jリーグ(J1、J2、J3)」50歳代が「マラソン・駅伝」、60歳代、70歳以上が「高校野球」であり、年代による特徴が明らかとなる。

今後の直接スポーツ観戦希望種目をたずねたところ、「プロ野球(NPB)」が34.2%と最も高く、次いで「フィギュアスケート」19.6%、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」18.4%、「高校野球」13.9%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」13.0%となっている(表4-4)。また、表4-4では観戦希望率の上位15種目を取り上げ、観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に区分して示した。すべての種目で継続観戦希望(リピーター)率よりも新規観戦希望率が高い特徴が確認できるが、「プロ野球(NPB)」「高校野球」「Jリーグ(J1、J2、J3)」「マラソン・駅伝」では、観戦希望率に占める継続観戦希望(リピーター)率の割合が高い。上位15種目の推計観戦希望人口をみると、推計継続観戦希望(リピーター)人口は3,011万人、推計新規観戦希望人口は1億6,184万人であった。

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況(複数回答)

順位	観戦種目	2014年 (n=2,000)				2012年 (n=2,000)				推計動員数 増減 (③-⑥) (万人)
		観戦率 (%)	① 推計観戦 人口 (万人)	② 観戦頻度 (回/年)	③ 推計動員数 (①×②) (万人)	観戦率 (%)	④ 推計観戦 人口 (万人)	⑤ 観戦頻度 (回/年)	⑥ 推計動員数 (④×⑤) (万人)	
1	プロ野球(NPB)	15.8	1,640	2.29	3,756	15.8	1,643	2.40	3,943	-187
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.5	571	3.18	1,816	5.2	541	2.93	1,585	231
3	高校野球	5.3	550	3.25	1,788	6.4	665	2.82	1,875	-87
4	マラソン・駅伝	4.8	498	1.28	637	4.7	489	1.37	670	-33
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.6	270	7.26	1,960	2.5	260	5.54	1,440	520
6	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.3	239	5.48	1,310	2.4	250	8.51	2,128	-818
7	バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.5	156	8.10	1,264	1.2	125	4.70	588	676
	プロゴルフ	1.5	156	1.45	226	2.1	218	1.78	388	-162
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.3	135	1.84	248	1.1	114	2.62	299	-51
10	プロバスケットボール(bjリーグ)	1.0	104	2.11	219	0.6	62	2.36	146	73
11	ラグビー	0.9	93	3.12	290	1.3	135	2.96	400	-110
12	大相撲	0.8	83	1.07	89	1.0	104	5.00	520	-431
13	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	0.7	73	1.36	99	1.4	146	1.70	248	-149
	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.7	73	2.00	146	1.2	125	3.35	419	-273
15	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	0.4	42	1.29	54	0.5	47	1.40	66	-12
	バレーボール(日本代表試合)	0.4	42	1.14	48	0.7	73	1.92	140	-92
	フィギュアスケート	0.4	42	1.00	42	0.6	62	1.18	73	-104

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別：複数回答)

男 性 (n=989)			女 性 (n=1,011)		
順位	観戦種目	観戦率(%)	順位	観戦種目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	20.2	1	プロ野球(NPB)	11.5
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	8.0	2	マラソン・駅伝	5.1
3	高校野球	7.1	3	高校野球	3.5
4	マラソン・駅伝	4.3	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.1
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	3.2	5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.0
6	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.8	6	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.8
7	プロゴルフ	2.2	7	バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.6
8	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.9	8	プロバスケットボール(bjリーグ)	1.2
9	バスケットボール(高校、大学、JBLなど)	1.3	9	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.8
10	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.1	10	大相撲	0.7
	ラグビー	1.1		フィギュアスケート	0.7
				プロゴルフ	0.7

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

20歳代 (n=270)			30歳代 (n=357)			40歳代 (n=376)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	15.6	1	プロ野球(NPB)	16.2	1	プロ野球(NPB)	20.5
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	8.1	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.2	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	9.3
3	高校野球	3.7	3	マラソン・駅伝	4.5	3	高校野球	7.4
4	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	3.3	4	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.5	4	アマチュア野球(大学、社会人など)	4.3
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	3.0	5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.0	5	マラソン・駅伝	4.0
	マラソン・駅伝	3.0		格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	2.0			
				高校野球	2.0			

50歳代 (n=332)			60歳代 (n=383)			70歳以上 (n=282)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	13.0	1	プロ野球(NPB)	16.2	1	プロ野球(NPB)	12.1
2	マラソン・駅伝	5.1	2	高校野球	7.6	2	高校野球	5.7
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	4.5	3	マラソン・駅伝	6.3	3	マラソン・駅伝	5.3
4	高校野球	4.5	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	2.9	4	プロゴルフ	2.5
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.4	5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.3	5	Jリーグ(J1、J2、J3)	1.8
	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4						

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表4-4】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=2,000)

順位	観戦種目	希望率 (%)			推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
		観戦希望率 (%)	継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)			
1	プロ野球(NPB)	34.2	12.9	21.3	3,550	1,339	2,211
2	フィギュアスケート	19.6	0.3	19.4	2,035	31	2,014
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	18.4	0.6	17.8	1,910	62	1,848
4	高校野球	13.9	3.8	10.1	1,443	394	1,048
5	Jリーグ(J1、J2、J3)	13.0	4.4	8.7	1,350	457	903
6	大相撲	12.8	0.5	12.3	1,329	52	1,277
7	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	10.2	0.3	9.9	1,059	31	1,028
8	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	9.8	0.2	9.6	1,017	21	997
9	バレーボール(日本代表試合)	8.7	0.3	8.4	903	31	872
10	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	7.7	1.0	6.7	799	104	696
11	マラソン・駅伝	7.6	2.9	4.7	789	301	488
12	海外プロサッカー(欧州、南米など)	7.4	0.1	7.3	768	10	758
13	プロゴルフ	7.3	1.2	6.1	758	125	633
14	F1やNASCARなど自動車レース	7.1	0.3	6.8	737	31	706
15	プロテニス	6.9	0.2	6.8	716	21	706
						3,011	16,184

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

### 4-3 | テレビによるスポーツ観戦状況

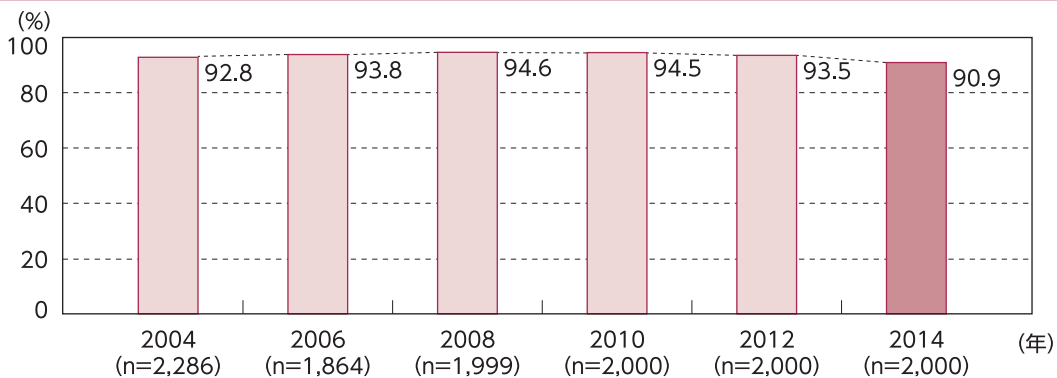
過去1年間にテレビによるスポーツ観戦を行った者は全体の90.9%であった(図4-4)。2012年の93.5%と比較すると2.6ポイント減少した。今回の結果から、過去1年間のわが国成人のテレビスポーツ観戦人口は9,436万人と推計された。

性別にみると、男性のテレビ観戦率が92.5%、女性は

89.2%であり、男性が女性を3.3ポイント上回っている(図4-5)。この傾向は過去の調査と同様である。

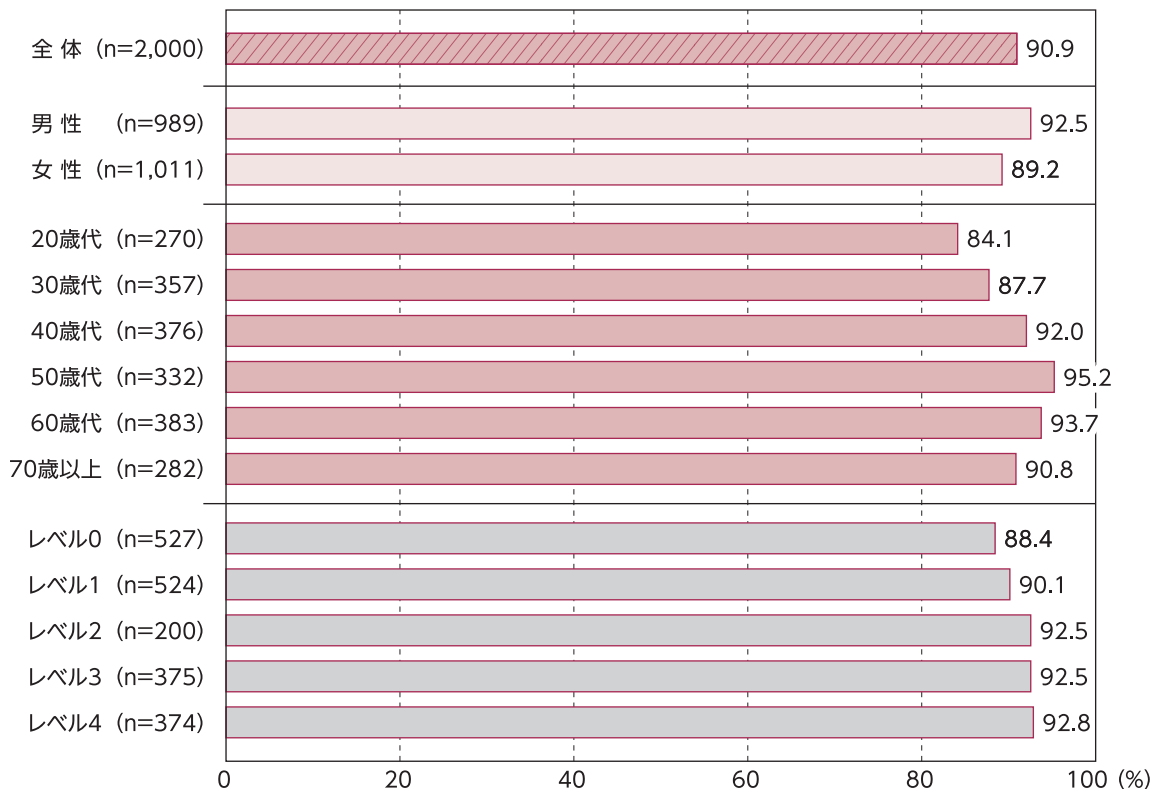
年代別にみると、40歳代以上の年代が90%を超えているのに対して、20歳代、30歳代は90%未満と、若年層はテレビ観戦率が低くなっている。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」における観戦率がやや低い値を示した。



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

## 4-4 | テレビによるスポーツ観戦種目

過去1年間にテレビで観戦した種目は、直接観戦と同様に、「プロ野球 (NPB)」が59.4%と最も高く、次いで「フィギュアスケート」57.4%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)」51.5%、「高校野球」47.9%、「マラソン・駅伝」45.7%となった (表4-5)。2012年調査と比較すると、「フィギュアスケート」が50.8%から57.4%へと6.6ポイント増加し「プロ野球 (NPB)」に肉薄した一方、「バレーボール (日本代表試合)」が52.1%から30.3%へと21.8ポイントの大幅な減少となった。

性別にみると、ほとんどの種目で女性より男性の方が高い観戦率を示した。特に「プロ野球 (NPB)」(男性72.6%、女性46.4%)、「格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)」(男性38.8%、女性16.0%)、「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」(男性37.6%、女性12.2%)、「プロゴルフ」(男性35.3%、女性17.5%)、「Jリーグ (J1、J2、J3)」(男性34.1%、女性18.6%) は顕著に男性の値が高かった。一方、「フィギュアスケート」(男性44.2%、女性70.3%)、「バレーボール (日本代表試合)」(男性27.9%、女性32.6%) は女性の値が高かった。

年代別にみると、20歳代、60歳代では「プロ野球 (NPB)」、30歳代は「サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)」、40歳代、50歳代は「フィギュアスケート」、70歳以上は「大相撲」と年代による人気種目の特徴がみとれる (表4-6)。

今後のテレビによるスポーツ観戦希望種目をたずねたところ、「プロ野球 (NPB)」が52.8%で最も高かった (表4-7)。次いで「フィギュアスケート」48.5%、「サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)」48.1%、「高校野球」41.6%、「サッカー女子日本代表試合 (なでしこジャパン)」39.0%となった。

また、表4-7ではテレビ観戦希望率の上位15種目を取り上げ、観戦希望率を「継続観戦希望 (リピーター) 率」と「新規観戦希望率」に区分して示した。直接観戦とは逆で、すべての種目で新規観戦希望率よりも継続観戦希望 (リピーター) 率が高い特徴が確認できるが、「サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)」「メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)」「プロテニス」「海外プロサッカー (欧州、南米など)」では、新規観戦希望率の割合が他の種目に比べて若干高い。上位15種目の推計観戦希望人口をみると、推計継続観戦希望 (リピーター) 人口は4億5,708万人、推計新規観戦希望人口は2,242万人であった。

【表4-5】 テレビによるスポーツ観戦種目別観戦率(全体・性別：複数回答)

全 体 (n=2,000)			男 性 (n=989)			女 性 (n=1,011)		
順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	59.4	1	プロ野球 (NPB)	72.6	1	フィギュアスケート	70.3
2	フィギュアスケート	57.4	2	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	58.9	2	プロ野球 (NPB)	46.4
3	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	51.5	3	高校野球	56.4	3	マラソン・駅伝	45.0
4	高校野球	47.9	4	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	46.8	4	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	44.1
5	マラソン・駅伝	45.7	5	マラソン・駅伝	46.3	5	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	41.4
6	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	44.1	6	大相撲	45.1	6	高校野球	39.5
7	大相撲	38.7	7	フィギュアスケート	44.2	7	バレーボール (日本代表試合)	32.6
8	バレーボール (日本代表試合)	30.3	8	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	38.8	8	大相撲	32.4
9	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	27.3	9	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	37.6	9	プロテニス	18.8
10	Jリーグ (J1、J2、J3)	26.3	10	プロゴルフ	35.3	10	Jリーグ (J1、J2、J3)	18.6
	プロゴルフ	26.3	11	Jリーグ (J1、J2、J3)	34.1	11	プロゴルフ	17.5
12	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	24.8	12	バレーボール (日本代表試合)	27.9	12	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	16.0
13	プロテニス	19.0	13	海外プロサッカー (欧州、南米など)	21.5	13	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	12.2
14	海外プロサッカー (欧州、南米など)	14.3	14	プロテニス	19.1	14	サッカー (高校、大学、JFLなど)	9.1
15	サッカー (高校、大学、JFLなど)	12.3	15	サッカー (高校、大学、JFLなど)	15.6	15	バレーボール (高校、大学、Vリーグなど)	7.3
	テレビで観戦した種目はない	9.2		テレビで観戦した種目はない	7.5		テレビで観戦した種目はない	10.8

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表4-6】テレビによるスポーツ観戦種目別観戦率(年代別:複数回答)

20歳代 (n=270)			30歳代 (n=357)			40歳代 (n=376)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	52.2	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	54.3	1	フィギュアスケート	59.0
2	フィギュアスケート	48.5	2	フィギュアスケート	54.1	2	プロ野球 (NPB)	56.1
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	46.7	3	プロ野球 (NPB)	52.4	3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	55.6
4	高校野球	36.7	4	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	42.3	4	高校野球	47.3
	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	36.7	5	高校野球	36.7	5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	44.9

50歳代 (n=332)			60歳代 (n=383)			70歳以上 (n=282)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	フィギュアスケート	65.4	1	プロ野球 (NPB)	69.2	1	大相撲	63.8
2	プロ野球 (NPB)	61.4	2	マラソン・駅伝	61.9	2	プロ野球 (NPB)	63.5
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	56.6	3	フィギュアスケート	61.6	3	マラソン・駅伝	59.2
	マラソン・駅伝	56.6	4	高校野球	56.1	4	高校野球	54.6
5	高校野球	54.2	5	大相撲	53.8	5	フィギュアスケート	52.8

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表4-7】テレビによるスポーツ観戦希望状況(複数回答:n=2,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望 (リピーター) 率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口 (万人)	推計継続観戦希望 (リピーター) 人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
2	フィギュアスケート	48.5	47.5	1.0	5,035	4,931	104
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	48.1	45.2	2.9	4,993	4,692	301
4	高校野球	41.6	40.6	1.1	4,319	4,215	114
5	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	39.0	37.2	1.8	4,049	3,862	187
6	マラソン・駅伝	38.2	37.5	0.7	3,966	3,893	73
7	大相撲	31.7	31.0	0.8	3,291	3,218	83
8	バレーボール(日本代表試合)	26.9	25.3	1.6	2,793	2,626	166
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	23.4	22.1	1.3	2,429	2,294	135
10	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	23.1	20.8	2.3	2,398	2,159	239
11	Jリーグ(J1、J2、J3)	23.0	22.0	1.1	2,388	2,284	114
12	プロゴルフ	22.3	21.7	0.7	2,315	2,253	73
13	プロテニス	17.2	15.1	2.1	1,786	1,568	218
14	海外プロサッカー(欧州、南米など)	14.7	12.6	2.2	1,526	1,308	228
15	サッカー(高校、大学、JFLなど)	10.8	10.1	0.8	1,121	1,048	83
						45,708	2,242

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014